



武庫川で恒常的に泡が溜まる、宝塚S字橋上流右岸の泡発生状況確認に行き、水量は平水状態ながら、洪水時に見られるような茶色く濁っていた。豊水期に入り河川工事は行われることもなく濁水発生原因が分からず、名塩川合流点まで様子見に行った。

当然のことながら、この間で工事や土砂崩れなど濁水発生源は見当たらなかった。

何時もは透き通った清水状態の名塩川も笹濁り気味だったが、武庫川本流は名塩川より遥かにひどい濁りかたで、濁水発生源は名塩川より上流にあることが分かる。

何らかの原因で一時的な濁りなら、翌日には落ち着くものと推測し翌日観察に行くと濁りは残るものの平常時近くまで戻っていた。川の防災情報から有馬川流域に局所的短時間豪雨が発生していたことが分かり、この局所的豪雨が濁水原因と推定できる。

日付	時刻	水位		有馬川流域に集中豪雨			
		塩田	道場	有野	有馬川	逆瀬川	船坂
7月19日	20:00	0.05	-0.04	0	0	0	0
	21:00	0.05	-0.04	0	0	0	0
	22:00	0.59	-0.04	37	21	17	21
7月20日	23:00	0.42	0.50	3	3	2	4
	24:00	0.31	0.28	0	0	0	0
	1:00	0.25	0.09	0	0	0	0
	2:00	0.21	-0.03	0	0	0	0
	3:00	0.18	-0.03	0	0	0	0
	4:00	0.16	-0.04	0	0	0	0

表は川の防災情報より採取